



研究室10周年記念パーティー

名前	小倉 淳郎
所属部署	理研バイオリソースセンター (筑波大学連携大学院)
職種	室長・コアPI・(教授)
この研究室に入った日	2002. 2. 1.
出身地	生まれは東京葛飾ですっ
趣味	写真撮影 (きれいであれば何でも写します)

インタビュー

Q1 現在の研究室の仕事内容を教えてください。

一言で言えば、実験動物（主にマウス）の発生工学です。核移植、顕微授精、凍結保存、幹細胞、その他エピジェネティクス研究などなど。その中にまたいろいろテーマがあるので、少し手を広げすぎかもしれませんね。

Q2 研究室の仕事の進め方は？

各分野の専門家が、お互い協力しながら進めてくれています。それから、何かあれば、すぐに共同研究者にお願いをします。あと、あまり混んでいる領域には足をつっこまない。争いはきらいなので。だいたい、こんな感じでこの15年ほど仕事を進めています。

Q3 まだ実験をしていますか？

たまに、数をこなす必要がある顕微授精や核移植クローンの実験に参加をしています。が、そろそろ、きわどい実験は迷惑をかけるので、手を引いています。やっぱりスピードが落ちたなー、と感じる今日この頃です。。

Q4 この分野に入ったきっかけは何ですか？

恩師ハワイ大学柳町隆造先生との出会いが一番のきっかけです。当時、胚操作の経験がなかった私の留学を受け入れて下さり、そこで基本的な受精卵の観察法など現在の手技のほとんどを教わりました。その他、有形無形の影響を受け、現在の自分があります。

Q5 今、何を一番知りたいですか？

いっぱいあって、どれが一番か、言うのは難しそうです。着床直前の胚のエピジェネティクス変化を知りたいし、マニアックなところでは、129系統という特殊なマウスのゲノム可塑性の秘密も知りたい（JRD 誌の Opinions and Hypotheses で解説しました）。また、なぜマウス体細胞クローン胚が胎盤異常を起こすのか、なぜ老化卵子が減数分裂異常を起こしやすいのか、始原生殖細胞がなぜ幹細胞化できないのか、trophoblast stem cell（TS細胞）はなぜES細胞に比べて品質が悪いのか、、、うーん、やっぱり、きりがありませんね。。

Q6 筑波大学の連携大学院とはなんでしょう？

筑波大学と理研との協定により、筑波大学の研究室として大学院生を受け入れております。昨年は2人、今年は1人が博士を修了しています。修士・博士課程、そして社会人枠もあります。一緒に仕事をしたい方、大歓迎です。ぜひ小倉までお問い合わせを。

Q7 最後に、JRD 誌の編集長として一言どうぞ。

歴代編集委員長リーダーシップとご尽力で、JRD誌は確実に雑誌としての力はつけてきています。ただ、会員の投稿がまだまだ少ないのが悩みです。会員の論文のレベルは安定していますので、やはりその率を上げるのが、雑誌の質を上げる近道なんです。JRD自身も、decisionまでの期間を短くしたり、Opinions and Hypotheses という新しいカテゴリーを入れたり、努力をしていますので、ぜひ会員の皆様には、1つでも多く論文を投稿をして頂いて、JRDの発展にご協力をお願いしたいと思います。